

二次予選出場者 | 4名が決定!

今回は、参加者がハイレベル者ぞろい。
第2次予選出場者の選出に思いのほか時間がかかりました。
審査員の方々の慎重な審議の結果、14名の方が選出されました。

二次予選出場者 (エントリーナンバー)

「 4 」	「 6 」	「 9 」	「 12 」
「 24 」	「 28 」	「 34 」	「 52 」
「 54 」	「 56 」	「 57 」	「 70 」
「 74 」	「 92 」		

以上の方々です。

【二次予選 課題曲】
2次予選の課題曲 暗譜で演奏すること。
W.A.Mozart:Klarinettenkonzert Adur K.622
モーツァルト:クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 全楽章

こどもオペラ フレーメンの音楽隊 R3.7.31

親子で楽しめるコンサートとして、昨年到现在開催しました。演奏者が物語の登場人物になるという子ども向けに工夫された設定で、演奏者の楽しい語りも相まって物語と音楽が融合された世界へ引き込まれました。曲に合わせて、時に歌い、時に体を動かし、とても楽しいステージでした。

楽器の紹介や楽曲の解説もわかりやすく、楽しい雰囲気の中で、本格的な演奏で名曲をたくさん聴くことができ、大人も子どもも大満足でした。



株式会社 ビュッフェ・クランポン・ジャパン 青柳さんからのメッセージ

青柳 亮太

難しい状況の中、2年ぶりのコンクール開催に尽力された全ての関係者の方々に敬意を表します。協賛企業の一員として、また加東の地に無事に来られたことを嬉しく思います。

今回も、参加者の皆様が少しでも演奏に集中出来るよう、微力ながらお力添え出来ればと思っていますので、楽器で気になることがあれば、使用メーカー問わず、お気軽にお声掛け下さい。

青柳さんには本当に長い間お世話になっています。コーナーの前には毎回沢山の出場者が訪れます。楽器の調整、手当は勿論のこと、その温かいお人柄に癒され、緊張をほぐしていただいたことでしょう。コンクールの力強い助っ人として、本当に有難い存在です。
(スタッフより)




〈コスミックホール 1年の歩みより〉
令和3年が始まって新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、一日でも早い収束を願い、音楽の力で元気を取り戻そうと、コスミックホールも様々な模索を続けました。こんな中でこそ、なんとか、この素敵なホールで生の演奏を楽しんで頂きたいと、感染対策に万全を尽くし、コンサートを開催しました。
「ホールから絶対に感染者を出さない」という決意のもと、スタッフ一同、館内の消毒、換気、座席の配置などの会場準備から当日の来館者への対応など、繰り返し確認し、最善を尽くして臨んでいます。今年度実施したいいくつかを紹介しします。

エリック・ミヤシロ 播磨国吹奏楽団 加東期公演R3.5.22

コスミックホールではすっかりお馴染みの世界的なトランペット奏者エリック・ミヤシロさんと、姫路から世界へ吹奏楽を発信されている播磨国吹奏楽団をお迎えしました。

播磨国吹奏楽団の演奏では多戸幾三氏の力強い指揮に引き込まれ、吹奏楽の重厚感と深みを堪能しました。

エリックさんのステージでは、トランペット演奏のしびれる高音と迫力、磨き抜かれたテクニックに酔いしれ、またユーモアに溢れた解説や温かいお人柄にも魅了されました。

コロナ禍で音楽に餓えていたホールに、パワー溢れる音楽が甦ったひとときでした。




～ 出場者の方々の感想 ～

- 埼玉から来ました。ボランティアの方のやさしさに、田舎に帰った気持ちになりました。
- 何回か京都から先輩や友人の応援に聴きに来ていました。今日は、私が舞台に立ち、気持ちよく演奏できました。皆さんのお迎えにはホッとするものがあります。
- 千葉からは遠いからどうしようかと思いましたが、やっぱりこのコンクールが好きだから来ました。大学のころから4回目です。ここのホールの響きがよくて好きです。
- 初めてです。ホールが結構よく響くなと思いました。その対応策など、今後のよい勉強になりました。
- オーケストラの仕事が入ってすぐコロナ禍となり仕事なくなったのがとてもつらかったです。練習は学校が案外早く始めてくれたので、助かりました。
- 大変響きのいいホールで、楽しく演奏できました。コロナで練習が家でできないので学校で練習しましたが、一時学校も休講となり大変でした。
- 何回か挑戦しています。コロナで大変な中、こんな機会をいただいて有難いと思っています。
- めちゃくちゃ緊張しました。途中で思わぬ音が出てしまい、「ああ、やってしまった!」と焦りました。

～ ボランティアさんの感想 ～

【受付係から】

- ◎ コロナ禍の中、若者たちのエネルギーを感じました。
- ◎ 心温まるエピソードを一つ紹介します。
今日、ある出場者の男性が靴を忘れたことに気づいて困っておられました。受付周辺にいたボランティアの男性が「どうぞ私の靴を」と声をかけたところ、何とかサイズが合い、急遽それを借りてステージに上がられ事なきを得たとのこと。演奏前の緊張感の中、とても喜ばれたそうです。
- ◎ 出場者が気持ちよく演奏して頂けるように、明るくさわやかに接するよう頑張っています。

【誘導係から】

- ◎ 出場者を舞台袖まで誘導する時間が細かく設定されているので、何かハプニングが起こった時の対応がむずかしく不安です。時間のずれが生じると、出場者の皆さんの待ち時間が長びき、音出しの時間にも影響します。今日一日、最後までうまく調整がつくよう祈っています。

【接待係から】

- ◎ コロナ禍の関係で、接待の場所など、窮屈な所もありますが、例年通り、先生方のつかの間の休憩の時間にホッとして頂けるように心がけて接待をさせて頂いています。



第32回日本木管コンクール
(クラリネット部門)
会場: 東条文化会館コスミックホール
発行日 2021年11月6日(土)
(第2号)

ほっとねっと

発行: 日本木管コンクール委員会
〒673-1311
兵庫県加東市天神66
TEL 0795-47-1500



※委員名は五十音順です

審査員の先生による 一次予選 講評

山本 正治

東京藝術大学名誉教授、武蔵野音楽大学特任教授
一般社団法人日本クラリネット協会会長

◎審査委員長

今年はクラリネットのコンクールが、日本クラリネット協会主催(5月)、日本音楽コンクール(9月、10月)と日本木管コンクール3回ありました。他のコンクールを受けてこのコンクールを受けている人が多くいました。

今回コンクールを聴いて、Donizettiは日本音楽コンクールにも出たので、皆さん安定して演奏している人が多かったと思います。又、予備審査もあつたので演奏レベルは高かったと思います。56人を聴いて感じた事は良くも悪くも日本人ですね、と言う演奏が多かったと思います。日本人はまず間違えないように練習しますが、まず音楽をしてそれから間違えない方向に練習するのも良いと思います。2次、本選と感動する演奏を期待します。



磯部 周平

東邦音楽大学特任教授、元NHK交響楽団首席クラリネット奏者

○運営委員長

メトロノームできっちりさらえばさらうほど音楽が遠くなり… 差別化を意識してルパートを多用しても心は冷めていく… 特にDonizetti・Haydn→Mozart→Beethovenの流れを引き継いだSchubertと国(地域)こそ違えど同時代人であり、WeberやRossini、Belliniと共に瑞々しい初期ロマン音楽の覇者…

参加者の中にこの視点をしっかりと持った演奏をした人が数名いました。私達は謙虚に多くの事を学ばねばなりません。「音楽を忠実に再現すること」と「自分をしっかりと表現する事」が高い次元で結び付くように…



近藤 千花子

東京交響楽団クラリネット奏者、洗足学園音楽大学非常勤講師
昭和音楽大学非常勤講師、東京藝術大学非常勤講師

個性が認められると共に、重視される時代に益々入ってきていると思います。演奏での個性も大事ですし、自由自在に吹きたいものです。しかし、ドニゼッティに関してはテンポが速すぎてしまい、淡泊になってしまったり、大事な音の粒が犠牲になり雑な演奏につながってしまったり、或いはあまり意味のないRuba+Oのせいで流れが滞ってしまったり、それは個性とは言えません。楽譜を読み取った上での表現は、一種の制約の中の自由です。

作曲家と対峙した演奏者と聴き手とのやり取りがなければ、聴き手の心まで音楽は届きません。ステージ上での一挙手一投足が音楽に向き合ったものにつながって欲しいと思った二日間でした。



橋本 眞介

名古屋音楽大学教授、エリザベト音楽大学非常勤講師、元広島交響楽団クラリネット奏者

まず共通課題のドニゼッティです。イタリア人の彼が最初に記載したAllegroは「快速に」という意味もありますが本来のイタリア語で明るく！だと思います。何故かテクニカルな速さばかり目立つ演奏が多く、そのうち速すぎて自滅...とならない様にしたいものですね。速い中にも一粒一粒が明るくクリアに聞こえているか?細かいパッセージの中にもフレーズがあり、どの分散和音の重心に向かっているか?など良く考えて演奏する必要があると思いました。私がドイツ留学中に先生から聞いた話ですが、ストラヴィンスキーのIは羊飼いの鼻歌、ポーッと羊を目を追いながら鼻歌ってる様子、IIの中間部はサーカス団の熊の曲芸(装飾はタンパリンのシンバル)等、何かの参考になれば。



本田 耕一

大阪音楽大学大学院教授、学校法人大阪音楽大学副理事長、日本クラリネット協会理事

コロナウイルス感染症に翻弄されて2年が過ぎようとしています。参加者の皆さんも、練習環境の確保が容易でない中でのコンクール参加は、想像以上に大変であったことと思われます。事前の予備審査の効果もあり、1次予選における参加者の皆さんの演奏は充実した内容で、コンクールに対する気概が感じられました。

個人的な感想としては、ホールの響きの特性が掴みきれなくて、自身の想定を上回る速いテンポになったり、音量過多になってしまったケースが少なからず聴かれたように思います。今後の参考にして頂ければ幸いです。



松本 健司

NHK交響楽団首席クラリネット奏者、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学兼任准教授

第一次予選出場の皆さん、お疲れ様でした。

皆さんの演奏からたくさんの刺激をいただいたのと同時にたくさんの疑問も浮かんできました。Donizettiの作品については、4分の4拍子で1拍目から曲が始まっているのに4分の4拍子の曲に聞こえない、最初に8分休符があるようには聞こえない演奏が気になりました。また三和音を響かせることが可能な音形なのに和音に聞こえないことも心配です。選択曲については特にStravinskyの作品で1曲目がMolto espressivoな演奏があったり、1曲目と3曲目には拍子が書かれているのに拍子の全く感じられない演奏に驚きました。作曲家が思いを込めて作曲した作品を奏でるのが私たち演奏家の役目です。作曲家が何を感ず、どういう音を求めて楽譜に残したのか、楽譜からそれを感じ取る感受性と自分の奏でている音を聴く耳を大切にしていきたいと思います。



三界 秀実

東京藝術大学音楽学部准教授

今回は動画審査を経ての本審査ということで、いつもの一次予選に比べてレベルが高く、とても難しい審査でした。もっと多くの人にモーツァルトを吹かせてあげたかった、というのが正直なところです。今回、選に漏れた方々は気落ちせず、自信を持ってこの経験を次に活かして欲しいと思います。細かいことを一点だけ。ストラヴィンスキー2楽章最後の「meno f」はそれまでより「音量を落とす」という意味になります。何人が勘違いしているようでした。ストラヴィンスキーに限らず、楽譜の中にある音符はもちろんのこと、すべての指示に作曲家の思いが込められています。最大限尊重するようにしましょう。



～加東市ふるさと納税 (ふるさと応援活動支援金)のご協力をお願いいたします～

特定の団体(支援希望団体)に対する寄付の受付を開始しています。

QRコードをスマホ等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金交付制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。

特定の団体(支援希望団体)については、「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」をお願いします。

詳しくはホームページをご覧ください。

また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」のホームページをご覧ください。



～日本木管コンクール開催における 協賛金・ご寄附に ご協力をお願いいたします～

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカー各位をはじめ、コンクールを応援して下さる個人の皆様の温かいご寄附とご協賛支援に支えられて取り組んでまいりました。

「この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならない」との思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与した功績をご理解いただき、今後もコンクールを継続するためにもご協力を仰ぎたいと考えております。

どうぞ、皆様の温かいご支援を宜しくお願いいたします。

詳しくは「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」又はQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。



加東市東条文化会館
コスミックホール



ホームページ
<http://cosmic-hall.org/>

